彩の国
埼玉県

病害虫防除情報

令和８年１０月１６日
埼玉県病害虫防除所

１　情 報 名　チュウゴクアミガサハゴロモの防除について

このことについて、令和８年１０月１６日付　農安第５３６号のとおり、植物防疫法第２９条第１項の適用により別表に掲げる薬剤を対象作物に対し、埼玉県内に限り使用できるよう措置がなされました。期間は当面の間とします。

２　情報内容

（１）　県内での発生状況

令和６年９月から１０月にかけて、県内の複数の農作物においてハゴロモ類による被害が発生した。チュウゴクアミガサハゴロモであることが判明したことから同年１０月３１日付で病害虫発生予察特殊報を発表した。

特殊報の発表後も本種の発生が相次ぎ、被害が拡大したことから令和７年１０月９日付で病害虫発生予察注意報を発表した。

以降も本種の発生が継続しており、果樹類、茶、花き類、花木類や植木類など数十種以上の品目・植物で確認されている。品目や地域によっては被害の拡大が続いている。

（２）　国内での発生状況

チュウゴクアミガサハゴロモは中国が原産地の外来種であり、国内では、平成２７年に大阪府で初めて発生が確認された。その後、複数の都府県で発生が確認され、令和６年に神奈川県で農作物への被害が初めて報告された。

その後、多くの都府県で特殊報が発表され、現在までに３１都府県で特殊報が発表されている。また、特殊報を発表していないが本種の発生を確認している県もあり、関東以西の本州・四国・九州で発生が確認されている。

（３）　形態・生態

チュウゴクアミガサハゴロモはカメムシ目ハゴロモ科に属する昆虫である。成虫の翅端までの体長は 14～16 ㎜、前翅長は 14㎜ 程度で、前翅は茶褐色から鉄さび色であり、前翅前縁中央部に三角形の白斑がある（写真１・２）。幼虫は白色で、腹部から分泌した白色ロウ状物質を放射状に纏う（写真５）。成虫は直径数㎜程度の細い枝や、葉柄、葉脈の内部に産卵し、産卵した部位を白色のロウ状物質で被覆する（写真３・４）。

生態の詳細は明らかにされていないが、年２化と推定される。越冬は卵で行われ、４月に孵化、５～６月にかけて幼虫が発生、６～７月に羽化し成虫が発生する。７～８月に産卵が行われ、８～１０月にかけて幼虫が発生し、９月以降、再び成虫が発生する。１０～１１月にかけて産卵が行われ、越冬後、翌春に孵化する。

本種の食性は極めて広く、草本植物を含め多くの樹種・植物を加害する。幼虫及び成虫の吸汁加害により、排泄物上にはしばしば「すす病」が発生する（写真６）。

産卵された部位は極めて目立つため観賞用植物では商品価値を大きく損なうほか、産卵部位の組織が損傷するため、枝の枯死などの被害が生じることがある。

（４）防除対策

ア　現在、本種に登録のある農薬はないため、可能な限り以下のイ、ウ、エに示す方法で防除するのが基本である。

イ　産卵された枝は次年度以降の発生源となるため直ちに切除し、地中に埋めるなどして適切に処分する。

ウ　当年枝の上部に産卵される場合が多いため、樹種の特性に合わせて秋季の整枝や冬季のせん定を十分に励行する。

エ　産卵加害を防止するため、可能な場合は防虫網や防鳥網、防風網で植物体を被覆する。

オ　被害が拡大するおそれがあることから、かんきつ、なし、うめ、ぶどう、ブルーベリー、いちじく、かき、キウイフルーツ、茶、花き類・観葉植物、樹木類においては、植物防疫法第２９条第１項に基づき都道府県の防疫措置としてチュウゴクアミガサハゴロモに対する防除には、当面の間、表に記載した農薬の使用が可能である。

農薬による防除に当たっては、別紙通知文（令和８年１０月１６日付け農安第５３６号「チュウゴクアミガサハゴロモ防除に対する植物防疫法第２９条第１項に基づく措置について（通知）」）の記載事項を遵守する。

写真１　成虫（カキ）

写真２　産卵中の成虫（ツバキ）

写真３　産卵枝（ブルーベリー）

写真４　産卵枝（カキ）

写真５　幼虫（ナツグミ）

写真６　すす病（シャリンバイ）

表　植物防疫法第 29 条第 1 項※に基づく防疫措置として使用可能な農薬

かんきつ　※[1]みかんを除く ※[2]みかんの場合

農薬の名称	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	本剤の使用回数
ダントツ水溶剤	散布	2000～4000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アルバリン顆粒水溶剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
スタークル顆粒水溶剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アドマイヤーフロアブル	散布	2000～5000 倍	収穫 14 日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	200～700L/10a	3 回以内
アークリン水和剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
テルスター水和剤	散布	1000～2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
テルスターフロアブル	散布	3000～6000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アディオン乳剤	散布	2000～4000 倍	収穫 14 日前まで	200～700L/10a	6 回以内
モスピラン顆粒水溶剤	散布	2000～4000 倍	収穫 14 日前まで	200～700L/10a	3 回以内
コルト顆粒水和剤	散布	4000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
※[1]アプロードエースフロアブル	散布	1000 倍	収穫 45 日前まで	200～700L/10a	2 回以内
※[2]アプロードエースフロアブル	散布	1000 倍	収穫 14 日前まで	200～700L/10a	2 回以内

なし

農薬の名称	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	本剤の使用回数
ダントツ水溶剤	散布	2000～4000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アルバリン顆粒水溶剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
スタークル顆粒水溶剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アドマイヤー水和剤	散布	1000～2000 倍	収穫 3 日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	200～700L/10a	2 回以内
アドマイヤーフロアブル	散布	5000 倍	収穫 3 日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	200～700L/10a	2 回以内
アークリン水和剤	散布	1000～2000 倍	収穫 14 日前まで	200～700L/10a	3 回以内
テルスター水和剤	散布	1000～2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	2 回以内
テルスターフロアブル	散布	3000～6000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	2 回以内
アディオン乳剤	散布	2000～3000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	2 回以内
モスピラン顆粒水溶剤	散布	2000～4000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
コルト顆粒水和剤	散布	3000～4000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アプロードエースフロアブル	散布	1000 倍	収穫 30 日前まで	200～700L/10a	1 回

うめ

農薬の名称	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	本剤の使用回数
ダントツ水溶剤	散布	2000～4000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アルバリン顆粒水溶剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
スタークル顆粒水溶剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アドマイヤー水和剤	散布	2000 倍	収穫 21 日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	200～700L/10a	2 回以内
テルスターフロアブル	散布	3000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	2 回以内
アディオン乳剤	散布	3000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	2 回以内
モスピラン顆粒水溶剤	散布	2000～6000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
コルト顆粒水和剤	散布	2000～4000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アプロードエースフロアブル	散布	1000 倍	収穫 7 日前まで	200～700L/10a	2 回以内

ぶどう

農薬の名称	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	本剤の使用回数
ダントツ水溶剤	散布	2000～4000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アルバリン顆粒水溶剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
スタークル顆粒水溶剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アドマイヤー水和剤	散布	1000 倍	収穫 21 日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	200～700L/10a	2 回以内
アドマイヤーフロアブル	散布	5000 倍	収穫 21 日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	200～700L/10a	2 回以内
テルスター水和剤	散布	1000 倍	収穫 14 日前まで	200～700L/10a	1 回
テルスターフロアブル	散布	4000 倍	収穫 14 日前まで	200～700L/10a	1 回
モスピラン顆粒水溶剤	散布	2000～4000 倍	収穫 14 日前まで	200～700L/10a	3 回以内
コルト顆粒水和剤	散布	3000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アプロードエースフロアブル	散布	1000 倍	収穫 30 日前まで	200～700L/10a	1 回

ブルーベリー

農薬の名称	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	本剤の使用回数
ダントツ水溶剤	散布	2000～4000 倍	収穫 45 日前まで	200～700L/10a	3 回以内

※植物防疫法第 29 条第 1 項「有害動物または有害植物がまん延して有用な植物に重大な損害を与えるおそれがある場合において、これを駆除し、又はそのまん延を防止するため必要があるときは、都道府県は、植物を検疫し、または有害動物若しくは有害植物の防除に関し必要な措置をとることができる」

いちじく

農薬の名称	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	本剤の使用回数
アディオン乳剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	2 回以内
モスピラン顆粒水溶剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アプロードエースフロアブル	散布	1000 倍	収穫 14 日前まで	200～700L/10a	1 回

かき

農薬の名称	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	本剤の使用回数
ダントツ水溶剤	散布	2000～4000 倍	収穫 7 日前まで	200～700L/10a	3 回以内
アルバリン顆粒水溶剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
スタークル顆粒水溶剤	散布	2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アドマイヤー水和剤	散布	1000 倍	収穫 7 日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	200～700L/10a	3 回以内
アークリン水和剤	散布	1000 倍	収穫 30 日前まで	200～700L/10a	3 回以内
テルスター水和剤	散布	1000～2000 倍	収穫 14 日前まで	200～700L/10a	2 回以内
テルスターフロアブル	散布	3000～6000 倍	収穫 3 日前まで	200～700L/10a	2 回以内
アディオン乳剤	散布	2000～3000 倍	収穫 7 日前まで	200～700L/10a	5 回以内
モスピラン顆粒水溶剤	散布	2000～4000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
コルト顆粒水和剤	散布	2000～3000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内

キウイフルーツ

農薬の名称	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	本剤の使用回数
ダントツ水溶剤	散布	2000～4000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アルバリン顆粒水溶剤	散布	1000～2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
スタークル顆粒水溶剤	散布	1000～2000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アドマイヤーフロアブル	散布	2000 倍	収穫前日まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	200～700L/10a	2 回以内
テルスターフロアブル	散布	3000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	2 回以内
アディオン乳剤	散布	2000 倍	収穫 7 日前まで	200～700L/10a	5 回以内
モスピラン顆粒水溶剤	散布	2000 倍	収穫 7 日前まで	200～700L/10a	3 回以内
コルト顆粒水和剤	散布	3000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	3 回以内
アプロードエースフロアブル	散布	1000 倍	収穫前日まで	200～700L/10a	1 回

茶

農薬の名称	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	本剤の使用回数
アルバリン顆粒水溶剤	散布	2000 倍	摘採 7 日前まで	200～400L/10a	2 回以内
スタークル顆粒水溶剤	散布	2000 倍	摘採 7 日前まで	200～400L/10a	2 回以内
アドマイヤー水和剤	散布	1000 倍	摘採 7 日前まで	200～400L/10a	1 回
テルスター水和剤	散布	1000 倍	摘採 14 日前まで	200～400L/10a	2 回以内
テルスターフロアブル	散布	3000 倍	摘採 14 日前まで	200～400L/10a	2 回以内
アディオン乳剤	散布	2000～3000 倍	摘採 14 日前まで	200～400L/10a	1 回
モスピラン顆粒水溶剤	散布	4000 倍	摘採 7 日前まで	200～400L/10a	1 回

花き類・観葉植物　※[1]きくを除く　※[2]りんどうを除く　※[3]りんどうの場合

農薬の名称	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	本剤の使用回数
ダントツ水溶剤	散布	2000～4000 倍	発生初期	100～300L/10a	4 回以内
アルバリン顆粒水溶剤	散布	2000～3000 倍	発生初期	100～300L/10a	5 回以内
スタークル顆粒水溶剤	散布	2000～3000 倍	発生初期	100～300L/10a	5 回以内
※[1]アドマイヤーフロアブル	散布	2000 倍	発生初期	100～200L/10a	5 回以内
アディオン乳剤	散布	2000～4000 倍	発生初期	100～300L/10a	6 回以内
※[2]モスピラン顆粒水溶剤	散布	2000～4000 倍	発生初期	100～300L/10a	5 回以内
※[3]モスピラン顆粒水溶剤	散布	2000～4000 倍	発生初期	100～700L/10a	5 回以内
コルト顆粒水和剤	散布	4000 倍	発生初期	100～300L/10a	4 回以内

樹木類　※[1]つつじ類を除く　※[2]つつじ類の場合　※[3]まつを除く　※[4]まつの場合

農薬の名称	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	本剤の使用回数
※[1]アルバリン顆粒水溶剤	散布	2000 倍	発生初期	100～700L/10a	5 回以内
※[2]アルバリン顆粒水溶剤	散布	2000 倍	発生初期	100～300L/10a	5 回以内
※[1]スタークル顆粒水溶剤	散布	2000 倍	発生初期	100～700L/10a	5 回以内
※[2]スタークル顆粒水溶剤	散布	2000 倍	発生初期	100～300L/10a	5 回以内
テルスター水和剤	散布	1000 倍	発生初期	200～700L/10a	6 回以内
アディオン乳剤	散布	4000～8000 倍	発生初期	200～700L/10a	6 回以内
※[3]モスピラン顆粒水溶剤	散布	2000 倍	発生初期	200～700L/10a	5 回以内
※[4]モスピラン顆粒水溶剤	散布	4000 倍	発生初期	200～700L/10a	5 回以内

※植物防疫法第 29 条第 1 項「有害動物または有害植物がまん延して有用な植物に重大な損害を与えるおそれがある場合において、これを駆除し、又はそのまん延を防止するため必要があるときは、都道府県は、植物を検疫し、または有害動物若しくは有害植物の防除に関し必要な措置をとることができる」

＜農薬使用上の注意事項＞

1　剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。

2　農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。

3　周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。

4　農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）で確認できる。
農薬登録情報提供システム（農林水産省）　https://pesticide.maff.go.jp/

問い合わせ先　埼玉県病害虫防除所　ＴＥＬ：０４８－５３９－０６６１